

平成26年10月31日

宗像市議会

議長 吉田 益美 様

建設産業常任委員会
委員長 石松 和敏

所管事務調査報告書

本委員会は、下記のとおり所管事務調査を行ったので、宗像市議会
会議規則第110条の規定により報告します。

記

【調査期間】 平成26年10月

【調査事項】 ・観光プラットフォーム推進事業
・離島振興施設運営事業

1 調査目的

行政執行に対して議会が持つ監視機能を発揮し、もって次年度予算編成
に議会の意思を反映させることを目的とし、実施するもの。

2 調査経過

・平成26年5月8日 議会運営委員会

9月定例会閉会中の各常任委員会所管事務調査において事業評価を行
うことを決定。

・平成26年10月

建設産業常任委員会を計2回開催。執行部への質問については、委員
会開催前に資料要求を行った。委員会では事業ごとに執行部による事業
概要の説明、質疑応答、委員間討議を行った。各委員の評価を記載した
事業評価シートをもとに事業評価一覧表を作成し、委員会としての事業
に対する評価をまとめた。

3 事業評価結果

別紙一覧表のとおり

建設産業常任委員会事業評価総括表 ①

事務事業名	観光プラットフォーム推進事業	個別事業名	—	所管課	商工観光課
政策発生源(1)	<input type="checkbox"/> トップダウン ↓ <input checked="" type="checkbox"/> ボトムアップ ↑	経緯・背景(2)	地域が潤う仕組みづくりとなる観光プラットフォーム事業を推進することで、観光入込客数の増加と地域産業の活性化を図る。		
他市比較(3)	<input type="checkbox"/> 本市のみ <input checked="" type="checkbox"/> 他市事例あり	市民参画(4)	地域産業団体・観光事業者		
総合計画(5)	<input checked="" type="checkbox"/> 整合性あり <input type="checkbox"/> 整合性なし	財源措置(6)	一財(100%) 補助等(%) 起債(%)		
将来コスト(7)	初期コスト <u>60,000,000</u> 円 + 運用コスト <u>60,000,000</u> 円/年 × <u>4</u> 年 = <u>300,000,000</u> 円 (見込み)				

評価者	必然性 (公共性)	必要性	費用対効果	成果	合計点数	総合評価	今後の取り扱い	
石松委員	C	C	D	C	55	C	経済指標を確立し、誰でも効果が判断できるようにすべきである。観光は絶対に必要。	C
森田委員	D	B	C	C	60	C	・指標を定め毎年の効果、検討、積み上げが必要である。 ・民間の人材を広く活用すべき。 ・イベントやキャンペーンの効果については、しっかり検証すべき。	C
植木委員	E	E	E	E	20	E	観光が独り歩きしている様に感じる。歴史、自然、文化を残すことにエネルギーを入れたらどうか。	D
小島委員	D	E	E	D	30	E	総合評価はかなり厳しいが、事業の廃止ではなく改善が必要。民間団体等で出来るような、例えば、祭り、花火大会等は民間(市民団体等)に委ねるを基本にすべき。	D
神谷委員	D	C	D	D	45	D	民間企業に委託することにより、新しい取り組みが生まれてくるのではないか。	C
委員評価(平均)					42	D		



今後の取り扱いに関するコメント	今後の取り扱いレベル	
<ul style="list-style-type: none"> ・経済指標を確立し、毎年の効果等を検討していくことが必要である。 ・イベントやキャンペーンの効果については、しっかり検証すべきである。 ・民間の人材を広く活用すべきである。 ・民間企業に委託することにより、新しい取り組みが生まれてくるのではないか。 上記のとおり、指標の確立、効果の検証、民間人材の活用などを期待する評価がある一方、観光が独り歩きしているように感じ、行政のかかわりが強すぎる。歴史、自然、文化を残すことにエネルギーを入れること。また、祭り、花火大会等のイベントについては、実施事業の取捨選択を行い、民間(市民団体等)に委ねることを基本にすべきという指摘も付け加える。	A: 拡大 B: 現状維持 C: 改善 D: 縮小 E: 廃止(休止)	C

建設産業常任委員会事業評価総括表 ②

事務事業名	離島振興施設運営事業	個別事業名	大島海洋体験施設運営事業	所管課	元気な島づくり課
政策発生源(1)	<input checked="" type="checkbox"/> トップダウン ↓ <input type="checkbox"/> ボトムアップ ↑ ※旧大島村時代から国県に対して要望していたもの	経緯・背景(2)	旧大島村時代から要望(船揚場、浮桟橋、釣り場等の整備)していたものを、H17年、合併後の宗像市が離島地域再生計画(大島・地島・神湊の一体的な整備)認定申請を行い、実現したものを。H19～22で整備し、H23に公設民営の海洋体験施設(うみんぐ大島)として運営開始。		
他市比較(3)	<input type="checkbox"/> 本市のみ <input checked="" type="checkbox"/> 他市事例あり ※地域再生計画に基づく事例はない	市民参画(4)	計画時に大島港整備検討委員会を設置。運営は指定管理者の(株)むなかた大島(出資金999万円:島民から一口1万円)が担っている。		
総合計画(5)	<input checked="" type="checkbox"/> 整合性あり <input type="checkbox"/> 整合性なし	財源措置(6)	初期コスト：一財(4.7%) 補助等(95.3%) 起債(%) 指定管理委託料：一財(100%) 補助等(%) 起債(%)		
将来コスト(7)	初期コスト <u>1,752,741,000 円</u> + 4年間の指定管理委託料 <u>36,316,000 円</u> = <u>1,789,057,000 円</u> 今後の指定管理委託料 <u>約 10,000,000 円/年(予定)</u> × <u>10年</u> = <u>100,000,000 円</u> (見込み)				

評価者	必然性 (公共性)	必要性	費用対効果	成果	合計点数	総合評価	今後の取り扱い	
石松委員	C	C	C	C	60	C	新たな顧客をつくり、いかにしてリピーター客を増やしていくかを検討し、営業とサービス向上に力を注いでもらいたい。	C
森田委員	B	C	D	C	60	C	・サービス、イベントなどのソフト面の充実を図ること。 ・営業、企画担当者の人材育成を図ること。 ・旅館などの施設を充実させ、観光施設と一体的に取り組むこと。	C
植木委員	E	D	E	C	35	D	うみんぐ大島と他の施策との一体化を考えないといけない。	D
小島委員	D	B	C	C	60	C	リピーターを増やすためには、少しでも多くの観光客を呼ぶ為の方策を考えて推進していくべきである。	C
神谷委員	C	B	C	C	65	C	今後の地域活性化事業への新しい取り組み方に期待する。	C
委員評価(平均)					56	C		



今後の取り扱いに関するコメント	今後の取り扱いレベル	
・新たな顧客、リピーターを増やすために、多くの観光客を呼ぶための方策を考えて、サービス、イベントなどソフト面の充実を図ること。 ・営業、企画力の向上を図ること。 ・旅館・民宿などの施設を充実させ、観光施設と一体的に取り組むこと。 ・今後の地域活性化事業への新しい取り組みに期待する。 上記のとおり、ソフト面の充実、人材育成、旅館・民宿の充実、地域活性化事業への新しい取り組みを期待するなどの評価がある一方で、うみんぐ大島と他の施策との一体化を考えないといけないという指摘もあった。	A: 拡大 B: 現状維持 C: 改善 D: 縮小 E: 廃止(休止)	C